

令和3年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人ニッセイ文化振興財団	
施 設 名	日生劇場	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	35,729	(千円)
	公 演 事 業	34,435 (千円)
	人 材 養 成 事 業	0 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	1,294 (千円)

(1) 令和3年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ニッセイ名作シリーズ 2021 バレエ「白鳥の湖」～大いなる愛の讃歌～	2021年7月5日 (月)～9日(金)	バレエ「白鳥の湖」 出演：東京シティ・バレエ団 指揮：井田勝大 演奏：東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団	目標値	4,936
		日生劇場		実績値	4,415※
2	日生劇場ファミリーフェスティバル2021 物語付きクラシックコンサート「アラジンと魔法の歌」	2021年7月24日 (土)、25日(日)	出演：又吉秀樹、宮地江奈、ほか 指揮：岩村力 演奏：ニッセイシアターオーケストラ 演出：眞鍋卓嗣、作・編曲：加藤昌則	目標値	3,648
		日生劇場		実績値	3,857※
3	日生劇場ファミリーフェスティバル2021 ダンス×人形劇「ひなたと月の姫」	2021年7月31日(土)、 8月1日(日)	出演：辻田暁、田根楽子、津村禮次郎、人形劇団ひとみ座 ほか 脚本：長田育恵、演出・振付：広崎うらん、舞台美術：長谷川匠	目標値	3,615
		日生劇場		実績値	2,174※
4	日生劇場ファミリーフェスティバル2021 バレエ「白鳥の湖」～日生劇場版～	2021年8月20日 (金)～22日(日)	バレエ「白鳥の湖」 出演：牧阿佐美バレエ団 指揮：井田勝大 演奏：シアターオーケストラトキヨー	目標値	5,539
		日生劇場		実績値	5,147※
5	日生劇場ファミリーフェスティバル2021 音楽劇「あらしのよるに」	2021年8月28日 (土)、29日(日)	出演：渡部豪太、北浦愛、大森博史、平田敦子 ほか 脚本・演出：立山ひろみ、振付：山田うん、音楽：鈴木光介	目標値	3,531
		日生劇場		実績値	3,453※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和3年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	日生劇場〈オペラを知る〉シリーズ 2021	2021年4月4日 (日)、10日(土)、6 月30日(水) ほか	レクチャー4回/ミニコンサート2回 登壇・出演：園田隆一郎、伊香修吾、 井内美香、砂川涼子、粟國淳、河原 忠之、佐藤美枝子、金子紗弓 ほか	目標値	480名 (80名 ×6回)
		日本生命日比谷ビル7 階 大会議室 ほか		実績値	439名※
2	日生劇場に行こう！おは なしとおんがくのひろば	2021年7月17日 (土)、18日(日)	出演：すなまき(砂川佳代子、高橋 牧)、川隅奈保子、石原朋香、宮谷理 香、金子あい	目標値	320名 (80名 ×4回)
		日生劇場ピロティ		実績値	343名※
3	第28回 日生劇場舞台フ ォーラム 2021	収録：2021年11月9 日(火) 配信：2021 年11月11日(木)	登壇：粟國淳、横田あつみ、大島祐 夫、増田恵美	目標値	350名
		日生劇場		実績値	1,274回※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p> <p>日生劇場は、設置者である日本生命保険相互会社の社会貢献活動のうち、「児童・青少年の健全育成」「豊かな文化の発展」への取り組みを実現するため、「届ける」「育む」「支える」の三理念をミッションに、舞台芸術の振興と普及に資する事業を実施している。本事業はその中心的な取り組みとして、舞台芸術の鑑賞機会提供を通じ、豊かな社会の礎となる子どもたちの情操涵養に努めるとともに、劇場集積地でもある日比谷から、文化環境の向上を目指している。</p> <p>令和3年度の公演事業では、いずれの演目も新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けたものの、ニッセイ名作シリーズ2021 バレエ「白鳥の湖」においては首都圏17校の中学・高校生4,415名に、オーケストラの生演奏による本格的なバレエ公演の鑑賞機会を無償で提供することができた。日生劇場ファミリーフェスティバルにおいては、特に緊急事態宣言下での公演実施ということもあり多くの払い戻しが生じたものの、4演目18公演に14,631名の入場者を迎えることが出来た。また公演事業の5演目中、3演目が自主制作公演、うち2演目は新制作による公演であり、日生劇場独自の舞台芸術作品を創作・発信する取り組みを通じて、文化環境の向上に寄与することも出来た。</p> <p>普及啓発事業では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、定員等を見直したものの、予定通り「<オペラを知る>シリーズ」と「日生劇場に行こう！おはなしとおんがくのひろば」を実施した。また、昨年度に続きオンラインでの配信に切り替えた「日生劇場舞台フォーラム」も、事前収録の強みを生かし、内容を分かりやすく編集するなどの工夫も行い、多くの方に視聴いただくことが出来た。</p> <p>以上、令和3年度は来場者数の面で新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けたが、概ね当初予定通り、当劇場の社会的役割や地域の特性等に基づいた事業の実施が出来たものと判断している。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>本事業では、公演事業において5演目23公演を、普及啓発事業において3事業を実施し、東京都23区や神奈川県を中心に、多摩地域、埼玉、千葉など広範なエリアから19,828名に来場いただいた。公演事業の情報周知に際しては東京都、神奈川県、埼玉県（教育委員会）をはじめ、各地の教育関係団体が広報展開に協力・後援いただき、来場者の過半を占める児童・生徒に対して舞台芸術の鑑賞機会を提供することが出来た。また、(3)創造性で詳述するが、3演目の自主制作作品（うち2演目は新制作）を上演したことは、プランナーや公演関係者にとって、ファミリー向けの舞台作品の創作に関わる数少ない機会になったほか、当劇場にとってもオリジナル作品の創造・発信が叶う結果となった。これらから、本事業の実施は、直接的には来場者の文化的なニーズに応えるとともに、自主制作作品等の創作プロセスをつうじて舞台芸術の振興に寄与するなどの文化的意義が認められると同時に、前述のとおり教育関係機関からの協力や、(4)創造性で詳述する近隣地域との関係から、社会的意義にも応えられているものと考えている。</p> <p>当劇場の活動や本事業のもたらす経済波及効果等の調査実績がないため、経済的意義について具体的な記述は難しいものの、コロナ禍で大きな影響を受けた舞台関係者への支払いに加え、来場者の当日の消費活動は周辺地域に対しても一定の直接的効果があるものとする。文化芸術がもたらす本質的な変化として、鑑賞機会の提供をつうじて若い世代の心を豊かにし、豊かな社会の実現に貢献するべく、引き続き関係各所からの支援をいただきながら、本事業をはじめ、当劇場の活動をより発展させていく所存である。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

(文中、【】内の数字は指標に対する達成度合い)

公演事業では、幼児・児童（及びその家族等）や中高生を対象にした質の高い舞台芸術を制作、鑑賞機会を提供することで、文化芸術の振興とともに、次代を担う子供たちの豊かな情操涵養に努めることを目標に、幅広い年齢層をカバーするジャンルの公演事業を実施した。

1. ニッセイ名作シリーズ バレエ「白鳥の湖」（中学・高校生向無料鑑賞教室事業）

首都圏の中学・高校 2,609 校【+9 校】に対し案内状を送付し、23 校【-7 校】から応募があった。調整の結果 20 校から合計 4,807 名【-129 名】が鑑賞予定であったが、東京都に発令中であった蔓延防止等重点措置を理由とした鑑賞辞退があり、最終的には 17 校から合計 4,415 名【-521 名】が鑑賞、目標を約 1 割程度下回る結果となった。多くの生徒は本事業で初めてバレエを鑑賞する（回収率 82.5%の鑑賞後アンケートで 77.8%がバレエ鑑賞経験ナシと回答）ため、バレエの見方や上演内容を簡潔にまとめたオリジナルの DVD 教材を無料配布（同アンケートで DVD を鑑賞した生徒のうち 82%が、理解が深まったと回答）したほか、上演時には場面解説の字幕を設置した。同アンケートによる公演満足度は 93.4%【+13.4%】であり、自由記述でも迫力ある振付やオーケストラの生演奏に感動したという生徒や引率教員の感想が目立つなど、「中高生に向けて」「本格的な」舞台芸術を届ける本事業の取り組みが評価されたものと考えている。

2. 日生劇場ファミリーフェスティバル（幼児・児童とその家族向けの夏期有料公演事業）

例年通り 1 都 3 県の自治体・教育委員会等からの後援を頂き、約 5,480 の幼稚園・小学校等をつうじて園児や児童・生徒の家庭に公演情報を周知した。今回はチケット販売が例年に比べ初動から非常に順調に推移し、一部演目では一般発売から 1 か月程度で実質的な完売状態になるなど、チケット販売率は 81.7%【+5.1%】と、目標を超過達成した。コロナ禍で子ども向け舞台作品の上演機会が減少し、個人や家庭レベルでの需要が高まっていた中、上述のとおり各機関に賛同いただいた広報活動が効果を上げたものと考えている。一方で、度々延長された緊急事態宣言により、結果として全公演が宣言下での開催となった。宣言下では収容率の 50%を超えるチケット販売を中止し、希望者への払戻を行うなど、安心して公演を鑑賞できる環境整備に努めた。観客アンケートにおける公演満足度は 92.6%【+12.6%】であり、自由記述では、コロナ禍で学校での芸術鑑賞の機会が全くなくなる中、子どもにとって貴重な機会になったという保護者の方のコメントが目立った。

日生劇場では各種公演や催し、広報等で普及啓発の観点を取り入れており、今回**普及啓発事業**で助成対象となった 3 事業は、いずれも鑑賞への機運を高めることを目的に実施した。「日生劇場＜オペラ＞を知るシリーズ」は主催オペラ公演を音楽、演出両面から掘り下げる講座やミニコンサートで、例年、年間 6 回程度実施。今回は収容人数を減らした関係で 439 名【-41 名】と、目標を下回った。また「日生劇場舞台フォーラム」は、同じく主催オペラの舞台制作過程の裏側を当事者であるプランナーが、実物の舞台を使い解説するユニークな取り組みであるが、コロナ禍の影響で前年に続き無観客での映像収録・配信の実施となった。動画視聴回数は 1,200 回を超え、目標を 20%程超過達成した。「日生劇場へ行こう！おはなしとおんがくのひろば」は、特に当劇場が所在する都心 3 区への浸透を意識し、新しく実施した。長時間の舞台での作品鑑賞には不安のある低年齢児に向け、劇場ピロティで楽しめる 30 分程度のパフォーマンスで、343 名【+23 名】の申込があり、うち都心 3 区からの申込が 45%と、地域の方からも一定の注目を得ることが出来たと考えている。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

中高生向けの無料鑑賞教室公演であるニッセイ名作シリーズ バレエ「白鳥の湖」は、例年通り学校側が各種行事との調整が行いやすい7月上旬に設定、調整の結果、鑑賞予定者数は（コロナの影響による直前キャンセル分を加えれば）目標の97%となった。日生劇場ファミリーフェスティバルも、家族そろっての来場がし易いよう、例年通り夏休み期間中に実施した。こちらも（2）有効性で詳述のとおり、目標を上回るチケット販売率を達成した。

普及啓発事業としては主催オペラ公演を題材に行う日生劇場<オペラ>を知るシリーズで、ミニコンサートを当該オペラ公演の発売に向けて広報を集中させる時期にあわせて告知。オペラ鑑賞を迷っている方にとって、判断の一助となるタイミングと考えている。また音楽や演出を掘り下げる講座は、上演する作品自体の具体例を交えて話しをするため、演出方針が固まり、制作が進む本公演の2~3か月前の実施とした。日生劇場舞台フォーラムは例年通り、11月に実施する主催オペラの公演期間中の実施とし、日生劇場へ行こう！おはなしとおんがくのひろばは、それをきっかけにファミリーフェスティバル公演への来場も検討できるよう、ファミリーフェスティバルの開幕前の実施とした。

公演事業、普及啓発事業とも来場者数（販売率、申込者数等）から判断する限りでは特段の問題はなく、また普及啓発事業においては、内容面を充実させるタイミングとしても、事業期間は適切であったと考えている。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

令和2年秋の要望書作成の段階は、コロナ禍で軒並み中止となっていた舞台公演が、安全な稽古や準備の進め方を探りつつ、徐々に再開している時期であり、その時点で翌夏の舞台制作がコロナ以前の方法で実施できるのか、あるいは想定外の支出が発生するのか、判断が難しかった。他方で支出の上限を増やすことも出来ないことから、有事の際には支出を柔軟に見直す前提で、コロナ以前の通常ベースで収支予算を編成した。結果、年明け以降に制作が本格化してからもコロナへの対応方法が何度か更新される中で、稽古や準備を安全に進めるために必要となる表現上の制約への対応や感染予防費に備えて支出を抑制気味で進めたこともあり、執行状況としては要望費でマイナスとなった。

一方で収入面でも要望時にはチケット販売を通常ベースで見込んだものの、特に短いスパンで緊急事態宣言の延長が繰り返される中でイベント開催の先行きを見通せず、また五輪開催など特殊事情も鑑みて、チケット販売が低調に推移する可能性があったことも、支出を抑制傾向で制作を進める要因となった。結果としてチケット販売自体は目標を上回り好調だったが、前述のとおり緊急事態宣言発令に伴う払戻を受けた結果、実際のチケット収入は要望時の86%に留まったため、支出減とチケット収入減が、ほぼ相殺される結果となった。

令和3年度は、コロナ禍にありながらも出来るだけ今まで通りの規模や表現で舞台を成立させるために、どのような感染予防対策が有用か、知見が集積し、方法を見出すことが出来るようになった一方、支出面にも収入面にも感染状況が大きく影響する難しい年であった。特に公演事業で、当初計画以上に支出を抑制しながら進めたことで、結果としてチケット払戻による減収分を相殺することが出来た。コロナが収束するまでは、直近の経験を反映させた柔軟な予算進行が重要になることは間違いないと思われる。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

日生劇場は劇場が集積し、多様なエンタテインメントが提供される銀座・日比谷エリアにおいて、年間4か月を、自主制作公演を主体とした主催事業に充て、残り8か月は貸し劇場として、主に大型ミュージカルや演劇公演等のロングラン公演を上演する劇場である。4か月の主催事業期間においては、子どもを含むファミリー向け公演と生徒へのバレエ公演を行う本事業のほかにはオペラ公演を実施しており、そのいずれもが、銀座・日比谷エリアではあまり上演されないジャンルといえる。特に本事業のうちファミリーフェスティバル公演においては、前述のとおりコロナ禍にも関わらず、目標を上回るチケット販売率を達成したほか、来場者アンケートにて捕捉している公演満足度でも、92.6%の方に評価いただいたことは、当劇場のミッションに照らしても直接的な効果であり、ひいてはこのエリア全体の舞台芸術の振興にも寄与していると考えている。

令和3年度は新型コロナウイルスの影響もあり、本事業では公演事業において、これまで実施いただいていた近隣商業施設におけるキャンペーンへの利用などが見送られたものの、中央区では引き続き区民サービスの一環としてチケットを購入いただいた。また観劇への機運醸成と地域価値の向上を図るため、隣接する東京ミッドタウン日比谷が中心となって実施する「日比谷フェスティバル」に参加（演目にちなんだミニステージを上演／無観客・オンライン配信）するなど、地域一体で舞台芸術を盛り上げる試みを行った。これらによって当劇場にとっても、単独ではリーチできない新しい層への訴求が果たされたものと考えている。

更に公演事業においては、本助成を得て制作した日生劇場ファミリーフェスティバル公演の音楽劇「あらしのよるに」とダンス×人形劇「ひなたと月の姫」は、その後各地の小学生を対象にした芸術鑑賞教室事業「ニッセイ名作シリーズ」公演（助成対象外事業）として、全国各地8都市での巡回公演を予定していた。新型コロナウイルス感染拡大による鑑賞校の辞退などで、結果として北上、上田と2都市での上演にとどまったものの、各地の劇場において日生劇場の自主制作作品を上演するこの取り組みは、当劇場の「届ける」という理念にそって、本事業で制作した作品を活かして各地に発信、当該地域の芸術文化の振興に努める取り組みとして、今後も各地の劇場等と連携を深め、継続していくものである。

また、普及啓発事業では、令和3年度より本助成に採択された「日生劇場＜オペラ＞を知るシリーズ」においては、来場者アンケートにおいて21%の方が、オペラ鑑賞経験が少ない（年1回未満）と回答。当劇場が制作するオペラ公演を題材に、作品の演出や音楽、時代背景などを、実演を交えて解説する取り組みが、オペラ鑑賞の機運を高めることに繋がっているものと思われる。さらに令和3年度より取り組んだ「日生劇場へ行こう！おはなしとおんがくのひろば」においては、前述のとおり、まだ劇場の客席に長時間座っての観劇が難しいと思われる幼児や小学校低学年の児童を対象に、気軽に劇場へ来て、短いパフォーマンスを楽しんでもらうことで将来的な観劇機運を高める目的で、特に日生劇場の立地する千代田区はじめ、都心3区（千代田区、中央区、港区）への当劇場認知の浸透も狙って実施した。結果、保護者から回収した来場者アンケートの集計では、全体の65%の方が都心3区から来場（アンケート集計のため、申込者データをもとに集計した実績報告書様式13-2の指標達成状況とは数値が異なります）、また同じく全体の79%の方が日生劇場に初めて来場したと回答した。このことから、当劇場の取組は周辺地域の舞台芸術の振興に寄与できていると判断している。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

日生劇場が主催する主な事業は、舞台芸術作品を制作・上演する公演事業と、舞台芸術や舞台を楽しむ人々の裾野を広げる普及事業に大別出来る。このうち公演事業は、①**本事業**（今回の助成対象事業）、②**オペラ公演**の企画・制作・上演（年間2作品／有料公演と生徒向けの無料鑑賞教室公演）、③**全国公演**（全国の劇場にて、当劇場制作作品（①・②）を有料公演と児童・生徒向けの無料鑑賞教室公演として巡演する事業）の3系統がある。また、普及事業としては、舞台芸術の鑑賞機運を高める各種催し（今回の助成対象事業）のほか、公演事業で取り組んでいる児童・生徒向けの無料鑑賞教室公演も、舞台芸術の普及に資する取り組みと考えている。これら各事業は相互に補完しあう関係にあるが、特に①**本事業**の成否や持続性は、その作品を各地に巡演する③**全国事業**の成否・持続性と強い相関関係にあり、従って本事業を改善・発展させていくことは、そのまま舞台芸術作品を創造・発信する当劇場組織全体の持続的な発展のため、不可欠であるといえる。

当劇場では、各公演終了後に制作担当部署と各部責任者及び常勤役員による評価会を実施し、制作面から広報、収支結果を含めた公演の総括を行っている。参加メンバーは事前に演出や各プラン、演技・演奏など作品の各要素を統一的な基準により採点、集計結果からそれぞれの作品が所期する目標やクオリティに達していたかを評価し、次年度以降の公演制作・運営に活用することで、公演事業の改善を図っている。本事業を含み、主催公演やその後の巡回公演においては、公演を企画・制作し、その制作過程を適切に管理する専任のアートマネジメント人材（6名。平均経験年数8年）が業務にあたっており、公演の芸術性を担保するため設置した芸術参与と要所で相談を重ねながら制作を進めている。また、日生劇場での上演にあたっては専任の舞台技術職員（17名。平均経験年数19年）と劇場運営職員（10名。平均経験年数16年）が業務を行っており、その大半を正規職員として雇用する（正規雇用率91%）ことで、安定的な雇用環境下で専門性の高い人材を確保し、また長期的観点で育成を行っている（舞台運営における一部業務は外部委託、また場内案内業務にはアルバイトも活用）。公演事業のPDCA運営に基づく改善と専門人材の安定雇用は、いずれも高い質で公演を制作し、提供することへと繋がっている。

また、事業費の面においては、本事業を含む事業実施に必要な費用は当劇場設置者である日本生命保険相互会社からの寄付金・協賛金、行政・民間からの各種補助金・助成金と本事業を含む日生劇場での有料公演の入場料収入、及び有料巡演公演の開催地主催者に負担いただく公演費等によって賄われている。

また、全国公演では本事業で制作した作品を巡演していることは先述のとおりであるが、一つの作品の上演回数が増えることで、より多くの方に作品を届ける機会が増えると同時に、上演1回あたりの制作コストが下がる効果があるため、この取り組みによってより効率的かつ持続的に事業を継続することが可能になっている。

このように、本事業をつうじて、組織としては人材面、財務面での体制強化が図られるとともに、劇場としては多くの来場者に満足度の高い作品を届け、ミッション、ビジョンの実現を希求していくことで、それが次の公演制作へと繋がっていく関係性の中では、内容面でも予算面でも、公演制作を成功させることがその第一歩となっており、組織活動の持続的発展のために、まさに不可欠な事業であるといえる。